

# ケーブルテレビ各社と 日本ケーブルテレビ連盟（JCTA）の 取り組みについて

2022年12月13日  
（一社）日本ケーブルテレビ連盟

# ケーブルテレビによる地域情報の発信（ユニバーサル対応例）

## <コミュニティチャンネル放送> 地域における市町村レベルの細やかな生活情報などを放送



日々の生活情報・ニュース番組

地域スポーツや祭などの中継

画像出所: 中海テレビ放送

画像出所: シーシーエヌ

### 災害対応などコミュニティFM連携 ラジオの再送信



画像出所:  
ひまわりネットワーク

### 高齢者スマホ教室 デジタル利活用推進



画像出所: 愛媛CATV

### 自治体ニュース・広報番組の 手話通訳対応



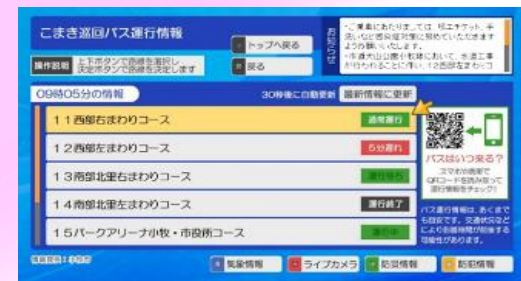
11月8日火曜日版  
画像出所: CTBメディア

### スマホアプリで 加入者以外にも広く発信



画像出所: ひまわりネットワーク

### 定点カメラ映像+文字情報 災害時だけでなく平時から発信



画像出所: CCNet

コミュニティチャンネル放送をベースに  
地域のさまざまなシーンで  
日頃から、地域住民の皆様へ寄り添う  
ユニバーサル対応を心掛けています

# JCTA会員事業者への情報発信支援施策

2021年6月に発表した『2030ケーブルビジョン』に基づき  
JCTAでは、2022年4月に、ケーブルテレビ業界のプラットフォーム機能の一つ、332社が活用する  
コンテンツマネジメントシステム（AJC-CMS）に、以下の基本機能を実装しました。

- ① 字幕対応につながる『AI文字起こし機能』
- ② 文字起こしを活かした『多言語対応』

2030年に向けたアクションプランを設定  
その一つに以下を掲げ、開発&リリースへ

## 2030年のケーブルテレビが担うべきミッションと目指すべき姿

2030  
ケーブルビジョン

### ミッション 『地域DXで地域を豊かに、人々を笑顔に』

- ◇2030年においても、ケーブルテレビ業界の志は変わらない!! すべては、地域社会のために、お客様のために!!
- ◇お客様との関係性は、企業とお客様ではなく、地域コミュニティを共創する《メンバーシップ》の姿勢で!!
- ◇持続可能な地域づくり《SDGsへの取り組み》が、ますます重要!!
- ◇地域課題解決のキープレイヤーとして、地域活性・地方創生など、地域の共通価値を創造《CSV》していく!!

### 目指すべき姿～6つのアプローチ

放送が変わる	地域における情報メディア・プラットフォームになる
コンテンツが変わる	地域の魅力を創出するコンテンツプロデューサーになる
ネットワークが変わる	安全で信頼性の高い地域No.1ネットワークを構築する
ワイヤレスが変わる	地域MNOとして第5のモバイルキャリアを目指す
IDが変わる	ケーブルIDで地域経済圏を構築する
サービス・ビジネスが変わる	地域DXの担い手になる

- ◆高齢社会や弱者に優しい社会の実現に向けて  
障がい者やお年寄りに寄り添えるケーブルテレビ業界へ
- ◆在日外国人対応や海外への情報発信にも挑戦できる  
ケーブルテレビ業界へ

👉 『字幕対応』や『多言語対応』について、10年の計で  
業界が着手しやすい環境（※）を整える

※約350の会員社のうち、小規模事業者、共聴組合事業者、自治体など、総接続世帯数1万世帯未満の事業者数は147社と、ロングテール構造。  
**自助（個社の努力）には限界があるため、共助の仕組みで、会員社の活動をサポート**

# 本格的な字幕放送対応に向けた課題 ※手話放送は行政のリクエストベースの対応が実情

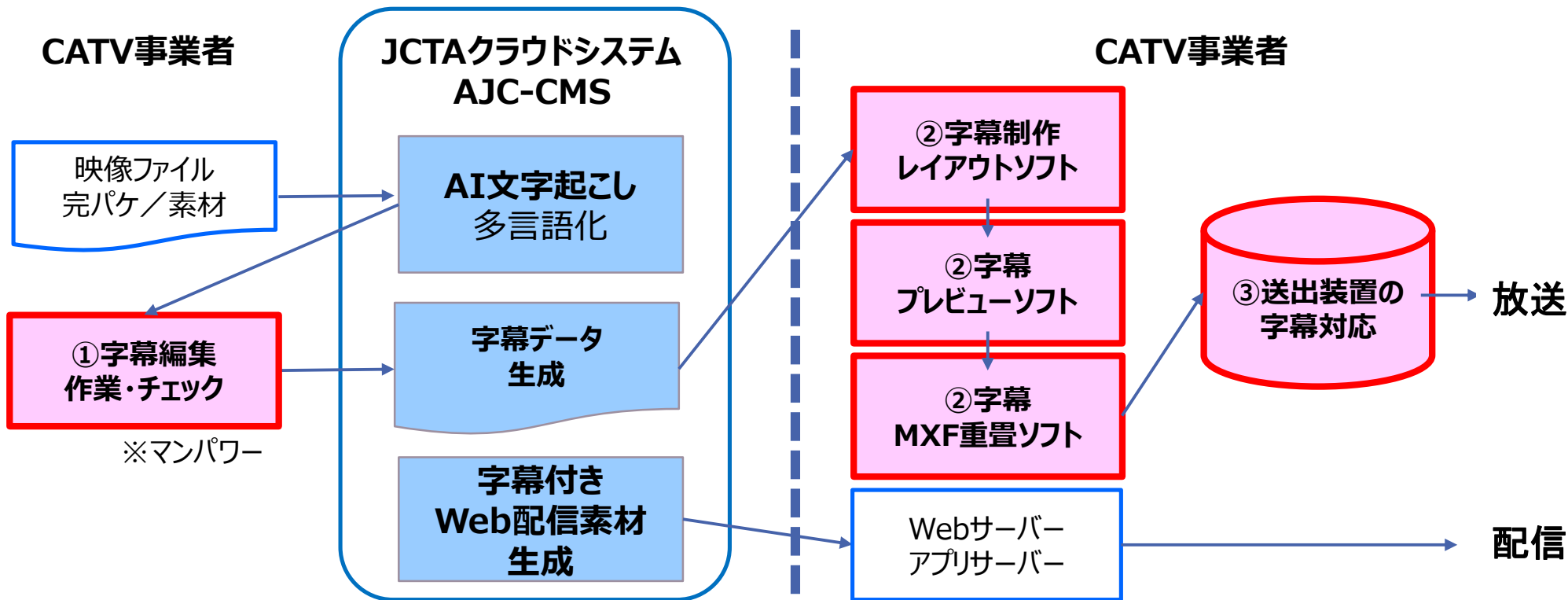
連盟が用意した仕組みは、あくまでも、字幕データ生成の補助的な支援機能  
①の作業支援と、②③に関わるソフト・ハード両面での支援の拡充を希望

## ◇連盟のコンテンツマネジメントシステムが提供する『AI文字起こし機能』の範囲

⇒ 下図の左側半分にある、作業工程の一部 (※) をサポート ※リアルタイム字幕には未対応

## ◇本格的な運用にあたっては、特に、下図の右側半分に相当する、事業者負担の重さが課題

⇒ 各社設備状況で異なるが、②の工程で約300万円、③の送出装置の字幕対応で数百万円を要する



# APPENDIX

## AJC-CMSについて (ALL Japan Cable TV Contents Management System)

### ◇業界共通の映像コンテンツ流通プラットフォーム

- ～ ケーブルテレビ業界における映像コンテンツの流通を促進するために、連盟独自のシステムとして2012年に開発され、継続的に機能アップデートを行いながら運用している

### ◇332社が利用 (2022年11月現在)

- ～ その内訳は、ケーブルテレビ事業者 (303)、番組供給会社 (23)、NHK含む他メディア (6)

### ◇AJC-CMSの毎月のコンテンツ流通量

- ～ 約1,500～1,800本のコンテンツが新規登録され、5,000～8,000本ダウンロードされる

## AJC-CMSと「Azure Speech to text」と連携させ、AIによる文字起こしと多言語化を支援

### ◆AI文字起こし及び編集

- ～ 動画ファイルをアップロードすることで文字起こし / 動画プレビューを閲覧しながら、修正・編集可能
- ～ 利用社ごとのフレーズ登録により、地名や固有名詞など頻出フレーズや方言など地域特性への対応力UP

### ◆多言語対応

- ～ 多言語を文字起こしできる (日本語 ⇒ 日本語文字、英語 ⇒ 英語文字 など)、33カ国翻訳機能

### ◆生成されるもの

- ～ 字幕ファイル (srt, vtt) および、テキストファイル (csv) を生成
  - ⇒ テロップャーへの貼り付けが可能、字幕レイアウト装置や字幕送出装置により「字幕放送」を実現
- ～ 字幕付きのWEB用MP4動画を出力、MP4字幕動画が簡単に作成できる
- ～ ただし、リアルタイム字幕には未対応